

VARÓN DE DIOS

(神の人)

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
九州教区 壮年部 2023年4月

主の御名を賛美します。

九州教区壮年部の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今回の「神の人」は、今年の12月に南米のコロンビアから福岡キリスト教会に宣教師としてお見えになったヘルソン師家族（ヘルソン師45歳、妻マリユリ師38歳、娘サライさん12歳）の紹介です。

コロンビアはプロテスタントのクリスチャンの割合が多く（33%）、現在リバイバルが起っています。（ちなみにボリビアは25%、グアテマラは55%です）

Q1. 日本ではどのような働きをしたいと考えておられますか。



私たちは長期間に渡る日本での働きを考えています。最初の数年間は、日本語を学んで日本の文化に親しみ、またこの期間に、私たちは子どもと青年の弟子訓練の働きのサポートをしたいと思っています。

将来はコロンビアからの宣教師が日本に来る手伝いをしたいし、この時代に合う伝道プログラムを作り、信徒がさらに神様の働きに加わるようにしたいです。日本には大きな収穫が近づいています。日本の教会はその準備をする必要があると思います。

Q2.コロンビアでは、どのような働きをしておられましたか。

私は信仰を持って29年、妻のマリユリは25年です。その間に多くの教会、教区で奉仕してきました。またコロンビア国内の、ことばと文化の



違う部族の人たちの所へ行って、福音を伝える働き人を育てました。（コロンビアには言語の異なる部族が多くあります）

Q3. コロンビアのキリスト教会の様子を教えてください。

地域によって教会の事情は違いますが、アッセンブリーの教会は教義がしっかりしており、社会的にも認められ安定しています。

Q4. コロンビアの人は、日本のことをどう思っておられますか。

日本に対して良い印象を持っており、日本の社会や規律を模倣したいと思っています。しかし他のアジアの国と間違えて、理解している面もあります。

Q5.どのように宣教を進めて行きますか。

時代はどんどん変化しているので、その時代に合う伝道をする必要があると思います。日本ではクリスチャンの人が未信者の友人を作ることが難しいようですが、コロンビアではそうではありません。南米の文化だと思いますが、自分が信じていることをはっきり語っても、友人との間に問題はありません。食事などを一緒にすることによって、交わる機会を持ちたいと思っています。

Q6.信仰を持ったのはいつですか。

私は16歳の時、神を信じました。最初に母が回心し、母は子どもたちが教会に行くことを義務としました。その頃は両親に従うことが普通であり、自分では同意していなくても教会へ行きました。教会に行くようになって、福音の意味を理解するようになり、教会の活動をするようになりました。妻は14歳の時、姉と一緒に教会へ行きました。その後、教会の中の若者のグループにあこがれて入りました。コロンビアでは、神を畏れる文化が根底にあります。

Q7.コロンビアでは信仰継承はできていますか。

そう思います。コロンビアは、3つのグループに分けることができます。一つ目は、福音は良いものだと思っているが、信じない人がいます。二つ目に、神を信じているけれども、あまり証しをしない人たちがいます。三つめは信仰を持ち、神の国の拡大のために献身している人たちです。

教会は新しい時代に適応しており、福音を伝えることを止めることはありませんでした。

Q8.日本人の印象を教えてください。

日本に来て数か月になります。日本人は勤勉で親切であり丁寧ですが、友達になる事に対して恥ずかしがり屋で、忙しさのために自由な時間をあまり持っていないと思います。日本人たちともっと多くの時間を過ごして、親しくなりたいと思います。

Q9.日本語を学んでおられますが、難しいですか。

日本語は、現在インターネットや教会で学んでいます。日本に来る前はことばの大切さをそれほど思っていなかったのですが、実際に来てみて、ことばの重要さを感じています。日本語を話すことができれば、福音を伝えることができないからです。

Q10 コロンビアでリバイバルが起こった理由は何だと思えますか。

初期の頃のクリスチャンたちの献身と犠牲だと思えます。彼らは迫害の中で福音を伝えました。弟子を育て、聖書の学びを行い、神様を礼拝することや福音を伝えることが日常化しました。

Q11 奥さんとはどうやって知り合いましたか。

彼女は違う町のアッセンブリー教会の人でしたが、学びのために私の町に来られ、教会の活動の中で知り合い結婚しました。

ヘルソン宣教師と娘のサライさんは、3月末に阿蘇で開催されたスプリングキャンプに参加されました。ヘルソン師は活動の様子をビデオに撮影して下さい、閉会式の時参加者で分かち合いました。

広報誌の名前は「VARON DE DIOS」(パロン デ ディオス)です。これはスペイン語で「神の人」という意味です。

九州教区 壮年部担当 松尾 敬文
福岡市東区水谷 1-14-3
福岡キリスト教会 092-681-5501

